

公開実用平成 3-2950

④日本国特許庁(JP)

①実用新案出願公開

②公開実用新案公報(U)

平3-2950

③Int.Cl.

F 16 H 7/08
F 02 B 67/06

識別記号

厅内整理番号

B 8513-3J
A 6673-3G

④公開 平成3年(1991)1月11日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑤考案の名称 ラチエット式テンショナ

⑥実 願 平1-62463

⑦出 願 平1(1989)5月31日

⑧考 案 者 鈴 木

恭 大阪府大阪市鶴見区鶴見4丁目17番88号 株式会社椿本チ
エイン内

⑨出 願 人 株式会社椿本チエイン

大阪府大阪市鶴見区鶴見4丁目17番88号

⑩代 理 人 弁理士 祐川 尉一 外1名

Best Available Copy

Best Available Copy

に一定の張力を付与する手段である。このようなテンショナの中には、ハウジングに摺動自在に取付けられたプランジャを突出方向に付勢し、前記ハウジングに設けられたラチエットを前記プランジャに形成されたラックに噛み合わせ、プランジャの戻りを防止するようにした構造のものがある。

ところが、上記のようなテンショナでは、従来、ラチエットの歯部のピッチとラックの歯のピッチは等しく設計されていた。そのため、一方の部材のピッチが変わると、他方の部材は一方の部材に合わせて製作されなければならなかつた。

ラチエットは、一般に焼結によって製造される。従って、前述のような設計変更をする毎に、成形型等を製作しなければならず、製造コストが嵩むという問題があつた。

なお、歯が1歯しかないラチエットもあるが、強度的に必ずしも充分ではない。

課題を解決するための手段

本考案は、上記のようなテンショナにおいて、ラチエットは複数の歯を有し、その歯部のピッチ

ラック15が形成されており、プランジャ14の内部にはハウジング12との間にプランジャ14を突出方向に付勢するスプリング16が嵌押され、この付勢力によって端面14aがテンショナシュー-36を押圧することにより、チェーン38に緊張力が付与される。

ハウジング12とボールシート24には、プランジャ14の内部の油室34にオイルポンプ等の油圧発生源からの油圧を供給する油路26, 28がそれぞれ形成されている。チェックボール20は、リテーナ18に一端を接するボールスプリング22によってボールシート24方向に付勢されており、このチェックボール機構が油路28と油室34間において油室34への油の流入を許し、逆に流出は阻止している。

プランジャ14の外面には、前述のようにラック15が形成され、前記突出方向と逆方向にスプリング32から付勢力を受けるラチエット30がラック15に噛み合いハウジング12に軸支されている。このラック15とラチエット30が噛み

Best Available Copy

設定されており、具体的には、0.75, 1, 1.5及び2mmのものがある。この場合、3mmのピッチのラチェットと2mmのピッチのラチェットを用意しておけば、すべてのラックと組合せることができる。すなわち、3mmのピッチのラチェットは、0.75, 1及び1.5mmのピッチのラックと噛み合うことができ、2mmのピッチのラチェットは、1及び2mmのピッチのラックと噛み合うことができる。このように、ラックの歯のピッチと公倍数の関係にあるピッチのラチェットを用意しておくことにより、ラチェットの共用化を図ることができることになる。

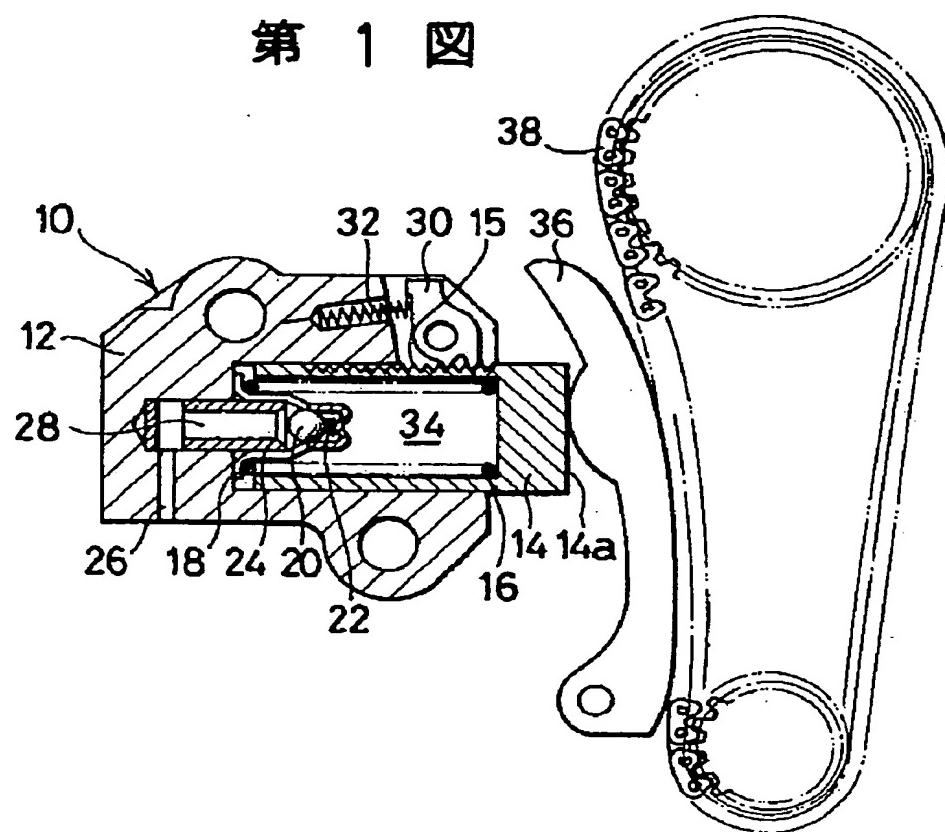
考案の効果

本考案によれば、以上に説明したようにラチェットを共用化でき、ラチェットを成形する型等の製作費用を削減することができる。しかも、従来の等ピッチのものに比べ、本考案のラチェットは歯部が大きくでき、プランジャ後退時における破壊強度の面でも有利である。

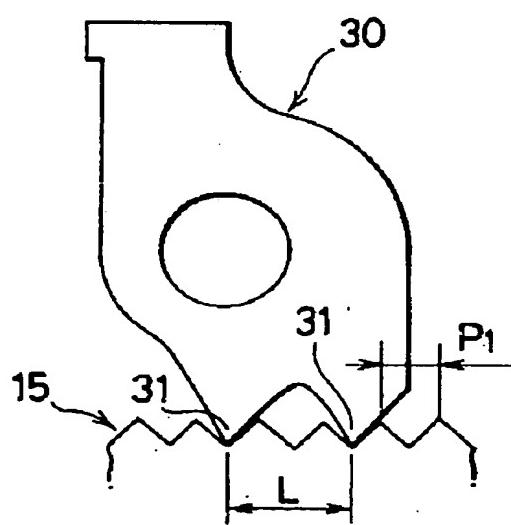
4. 図面の簡単な説明

Best Available Copy

第1図



第2図



第3図

